

大地震（震度5以上）が起きたときの基本的な対応 (例)

※震度5とは 緊急地震速報が携帯電話やテレビ、ラジオから伝えられる。つり下げ物は大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てる。窓ガラスが割れて落ちる。電柱が揺れるのがわかる等。

◎子供が学校にいるとき

- ①揺れがおさまるまで自分で身の安全を確保させる
 - ②学校の指示で、運動場に避難させる
 - ③保護者が迎えに来るまで、学校に待機させる。
 - ④学校安心メール等で保護者へ「引き渡し」の時間・場所の連絡を行なう
 - ⑤子供の「引き渡し」の開始を行なう
- ※「引き渡し」ができない子供は学校で一時待機をさせる

◎子供が登・下校中のとき

- ①揺れがおさまるまで自分で身の安全を確保させる
 - ②学校か自宅か近い方に避難（又は予め家庭で決めている場所へ避難）させる
 - ・家に保護者がいない場合は学校へ避難させる
 - ・学校に来た子供は運動場へ避難させる
 - ③学校の職員は校区のパトロールを開始する
 - ④学校安心メール等で保護者へ「引き渡し」の時間・場所の連絡を行なう
 - ⑤子供の「引き渡し」の開始を行なう
- ※「引き渡し」ができない子供は学校で一時待機をさせる

◎子供が家にいるとき

- ①学校安心メール等で保護者へ「自宅待機」の連絡をする
- ②職員は安全確保しながら学校へ参集する
- ③子供の安否確認を行なう
- ④学校再開に向けての情報収集と関係機関との連絡調整を行なう

保護者の対応

- ①テレビやラジオ、学校安心メール等で状況の確認をする。
- ②「引き渡し」には、通学路の安全を確認しながら、原則徒歩で来る。
- ③登・下校中に自宅（学校以外の避難場所）へ子供がかえってきた場合、「〇年〇組 名前〇〇〇〇 自宅（避難場所）にいます。今後の連絡先は〇〇です。」と学校へ連絡する。